



縱橫滿天下義氣獨超羣 宋江



說劍談兵星斗寒 吳用



仇深一奴力敵萬夫 盧俊義

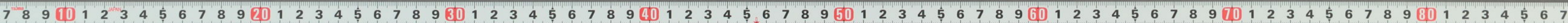
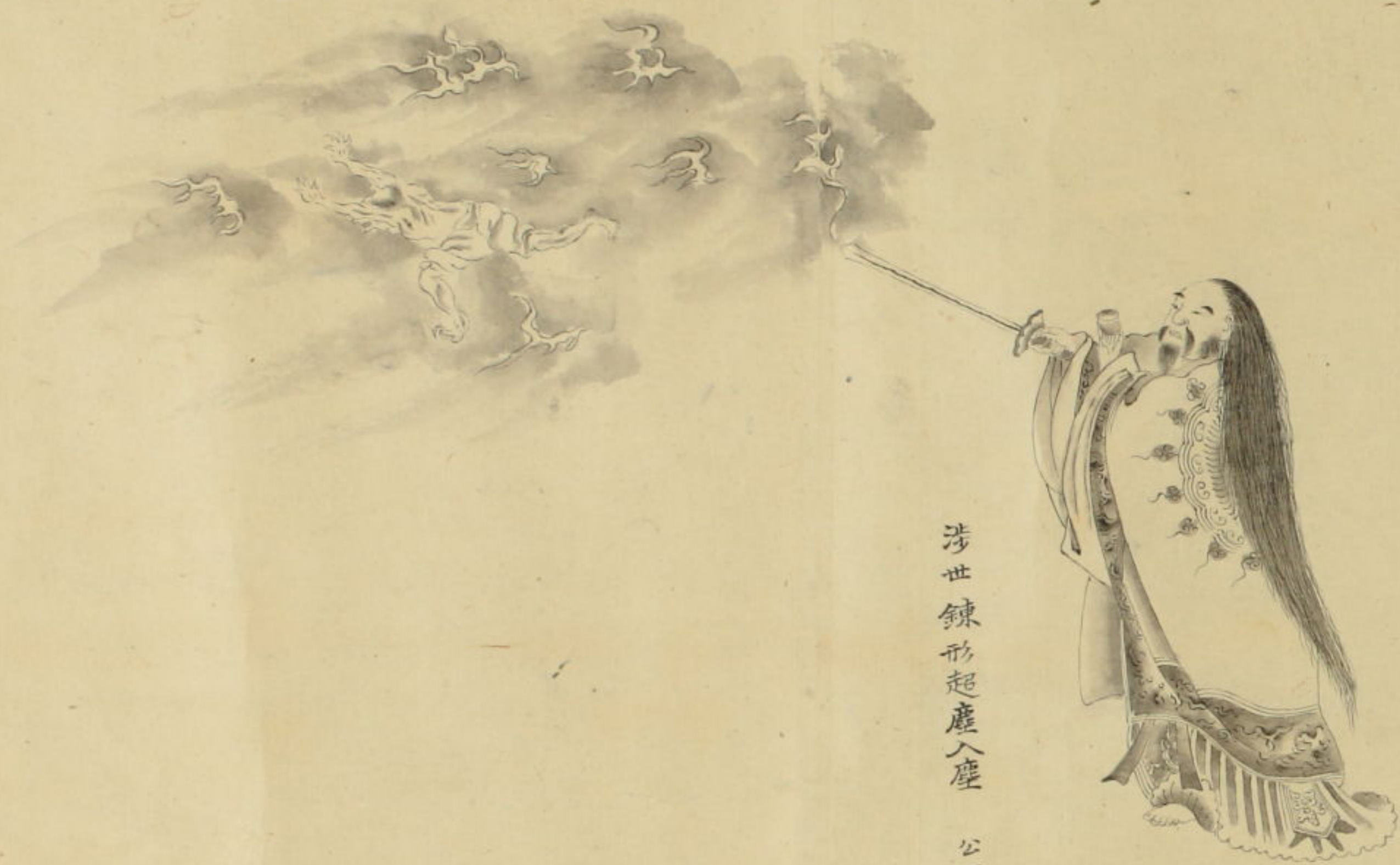


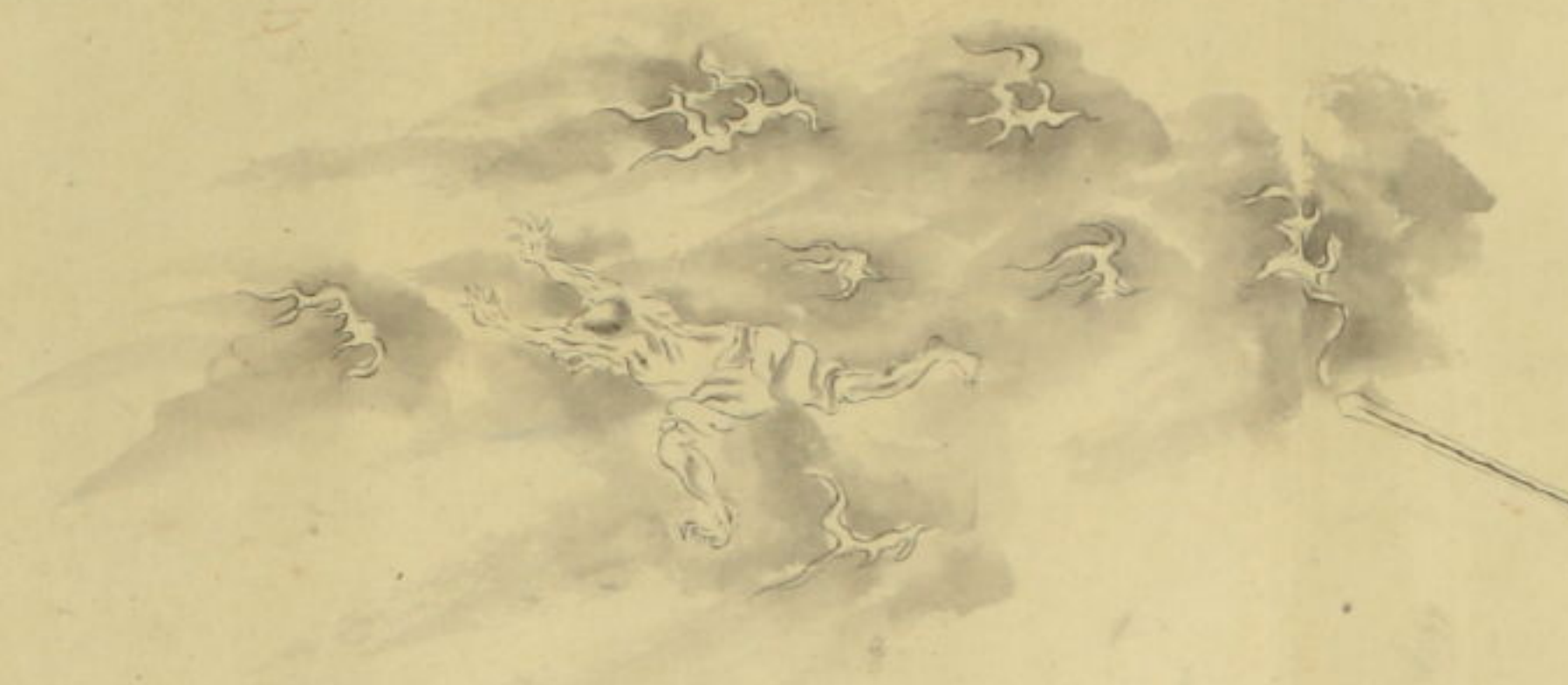
運用絕倫漢室偉人關勝

報讎雪恥身無寄匹夫一怒群雄起

林冲  
原本作潘冲今改之

涉世鍊形超塵入塵 公孫勝



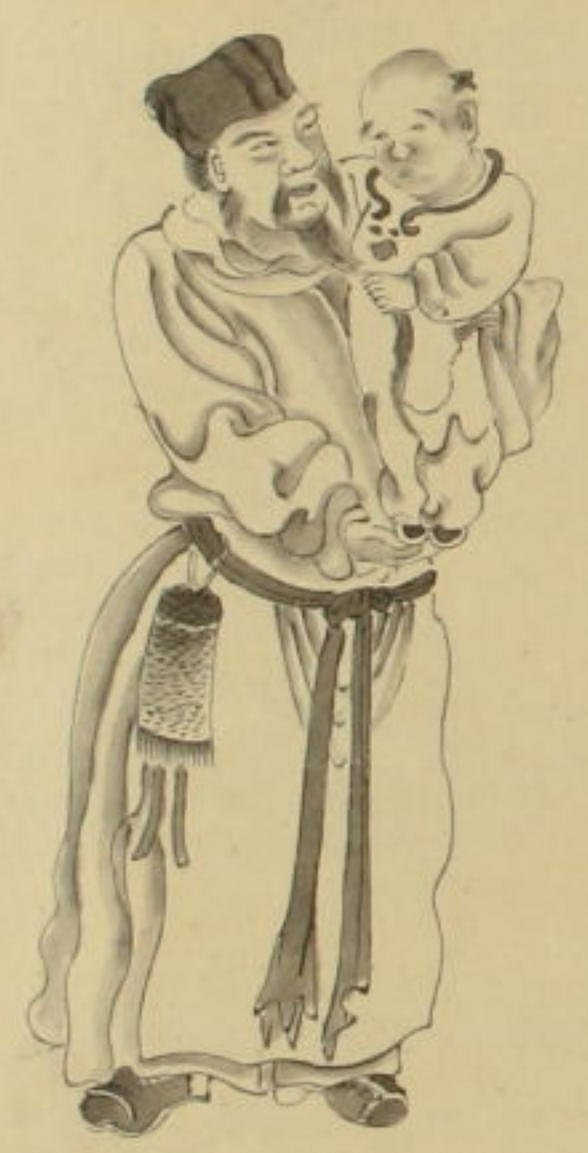


涉世鍊形起塵入塵 公孫勝

瓊枝照席海內三十客 柴進



將軍三箭定天山 花榮



踈財仗義屠龍為技未全

飲酒為性殺人為命杖頭酷虐人不可進 魯智深



百戰無雙于敵國逢佳偶 張清



百戰無雙手敵國逢  
佳偶 張清



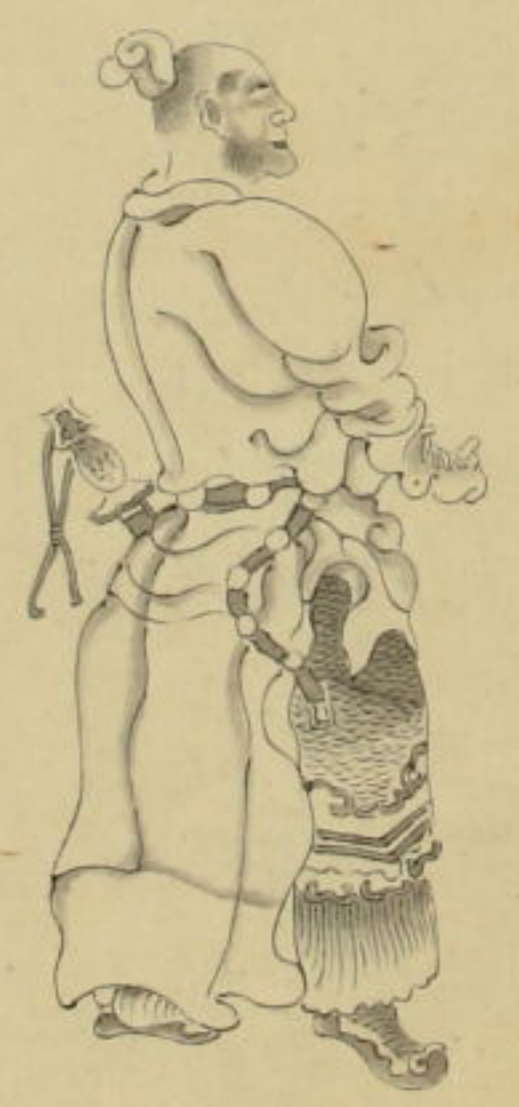
忘家誠報國鳳柱鸞膠續 秦明



管總累世鵬搏鳳舉馬革濠時  
慎終繼始 呼延灼



識時務者呼為俊傑 李應



念兄難報已誓刺心斷首  
鴛鴦樓 武松



霍鎗竟無敵一  
笑已傾城 董平



仕途淹蹇山鬼矣相踐 楊志



仕途淹蹇山鬼相踐 楊志

雁翎之名衛人陷人 徐寧



十里江陵一日還 戴宗



幽燕名將器宇 沈雄 索超



氣壯心偏急怒髮邊赤 劉唐

旋風起兮黑雲飛山鬼 潛兮瘴夫愈 李逵



弃家曰仗義刎頭為忘形 史進



樂斯耕稼獨陽  
為霸 穆弘

拔拳飛脚雙翅雲中掉 曹煥

醉翁之意不在酒漁翁之  
意不在魚 阮小二



中土莫容身東華堪定  
岸 李俊  
家在潯江蘆葉灣 張橫

烟波江上使人愁 阮小五  
天雨黑中鬼夜泣蘆花深處  
闍羅活 阮小七



出沒波濤裡毋畏蛟龍起 張順



合則留至則去平所不平  
避所不避石秀空即為  
色花落翠屏山赤楊雄





豺狼當道安問狐狸 鮮珍  
披草履虎夜山魃舞 鮮寶



誓醉佳人琴瑟傍 燕青

干戈滿地一戎衣 黃信  
好奇用慶神機妙算 朱武



仁親以為寶 孫立忘身以為  
忠陷身不為耻 吉夢維何維  
井之宿 軒思文 寧將玉樹倚萊  
葭 宜贊



先鋒百戰在  
畧地兩隅空

韓滔

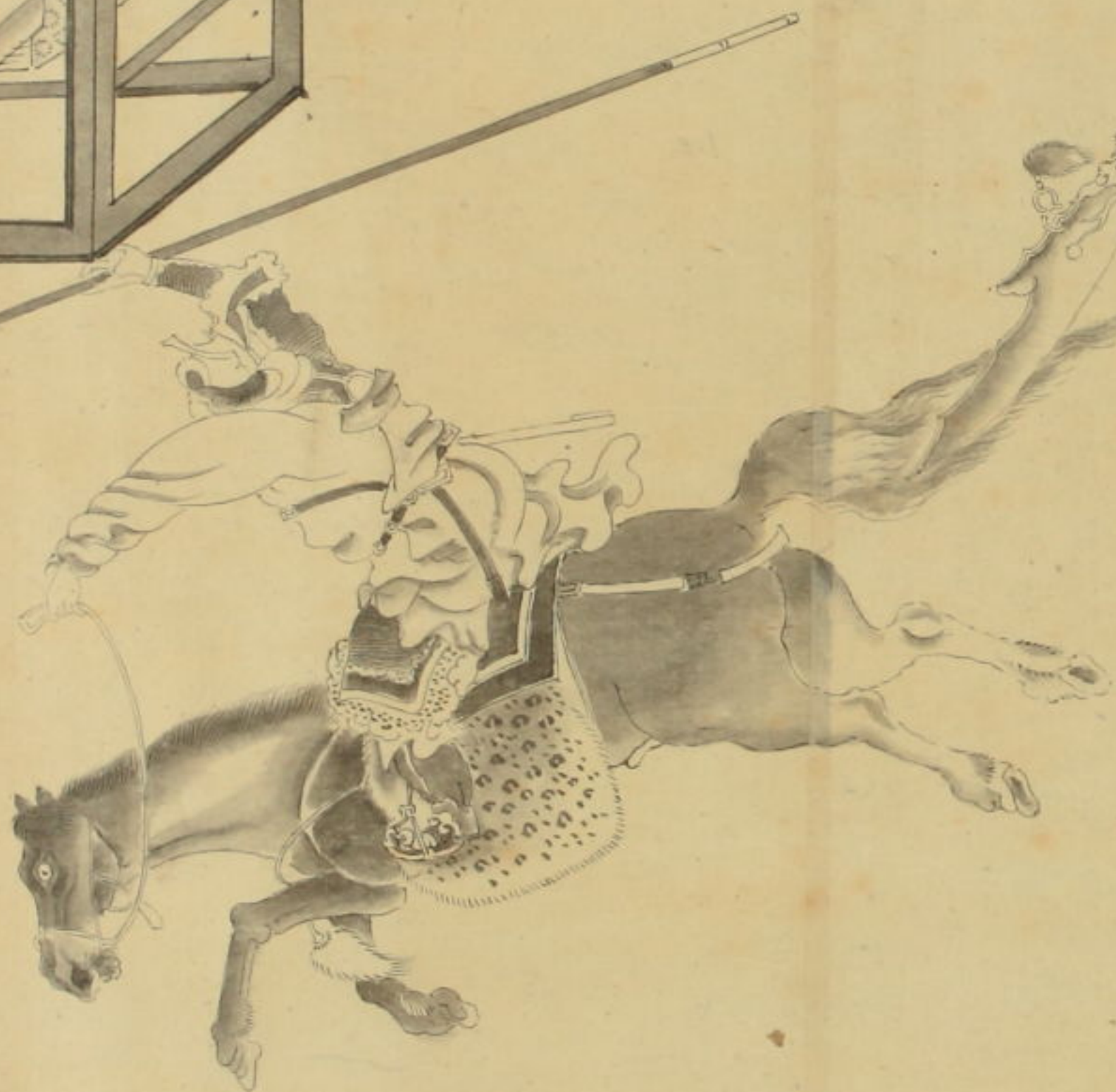
孤雲隨殺氣血色

耀神刀 彭玘

火旗焰焰燒天

紅

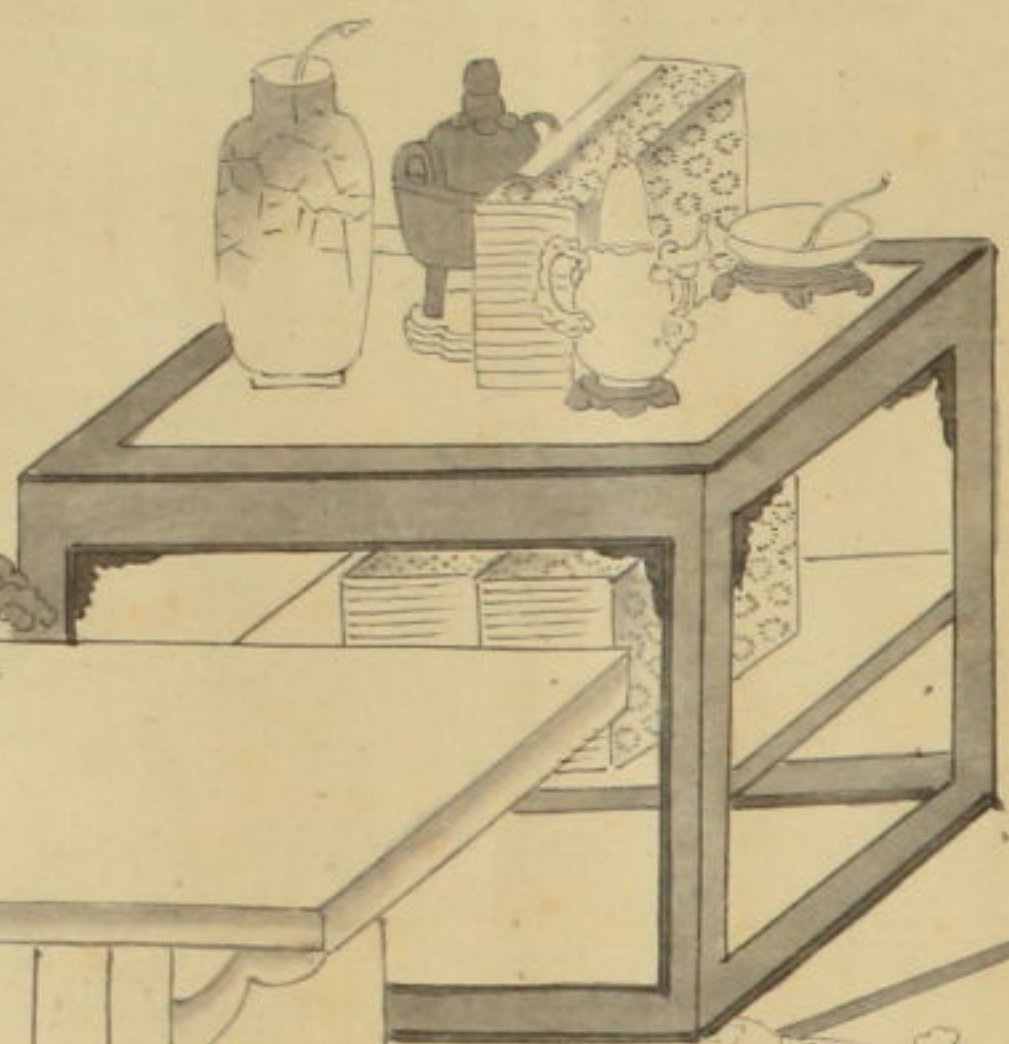
魏定國



烏雲變化無心躬 單廷珪

書生筆舞敢言兵勢

蕭讓



大江舟号曾冠軍綠

林豪容氣摩雲

馮鶴

飲馬川前雙眼赤剪

徑林中鐵鏈息

鄧飛

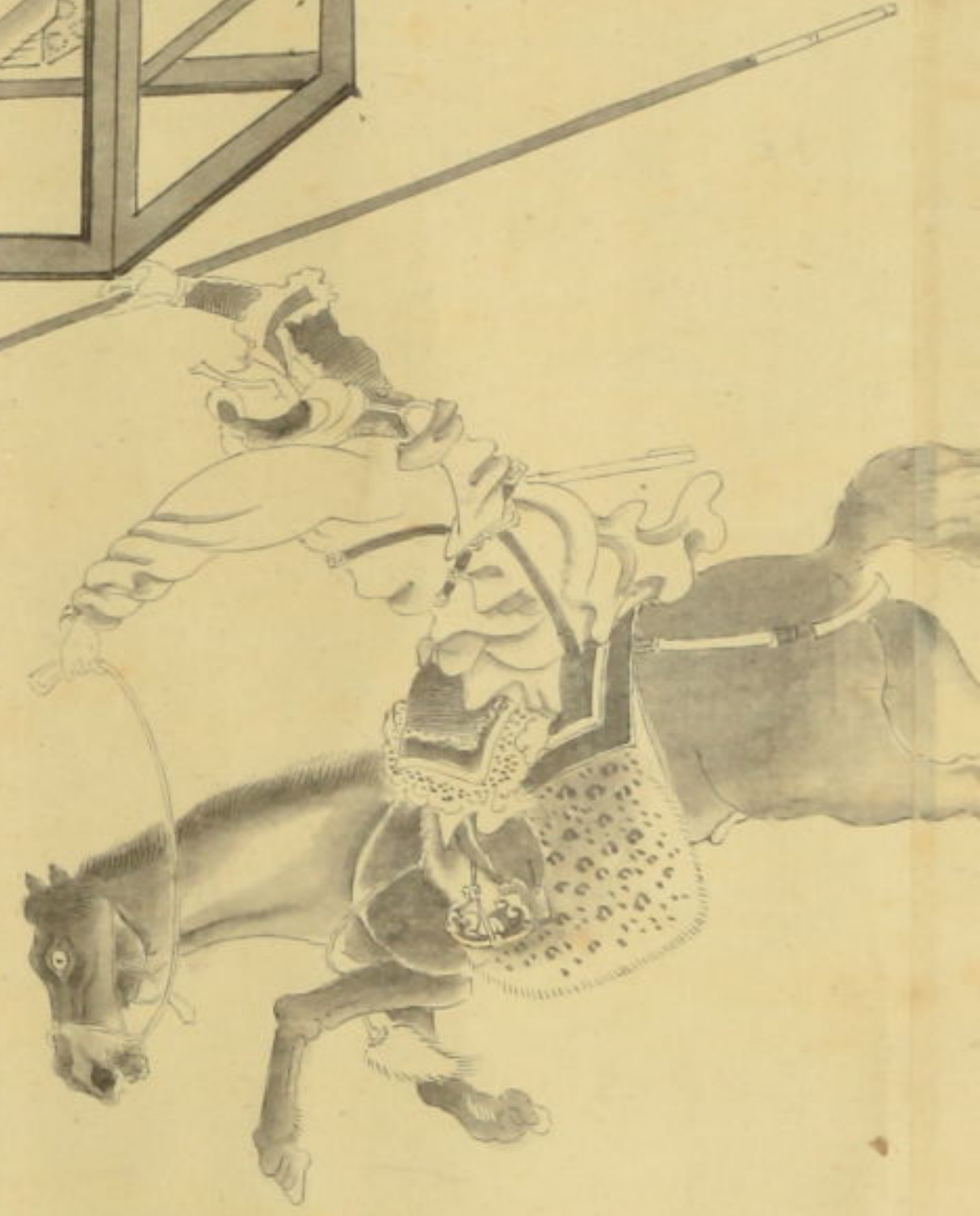


劍橫如雪面冷鐵 裴宣

任俠為俠聞義則拜 楊林

勁風鳥飛絕虎嘯人跡滅 燕順

烏雲變化無心躬 單廷珪  
書生筆舞敢言兵務  
蕭讓



大江舟号勇冠軍綠  
林豪客氣摩雲

鷗鵬

飲馬川前雙眼赤剪  
徑林中鐵鏈急

鄧飛



劍橫如雪面冷鐵 裴宣  
任俠為快聞義則拜 楊林  
勁風烏飛絕虎嘯人跡滅 燕順

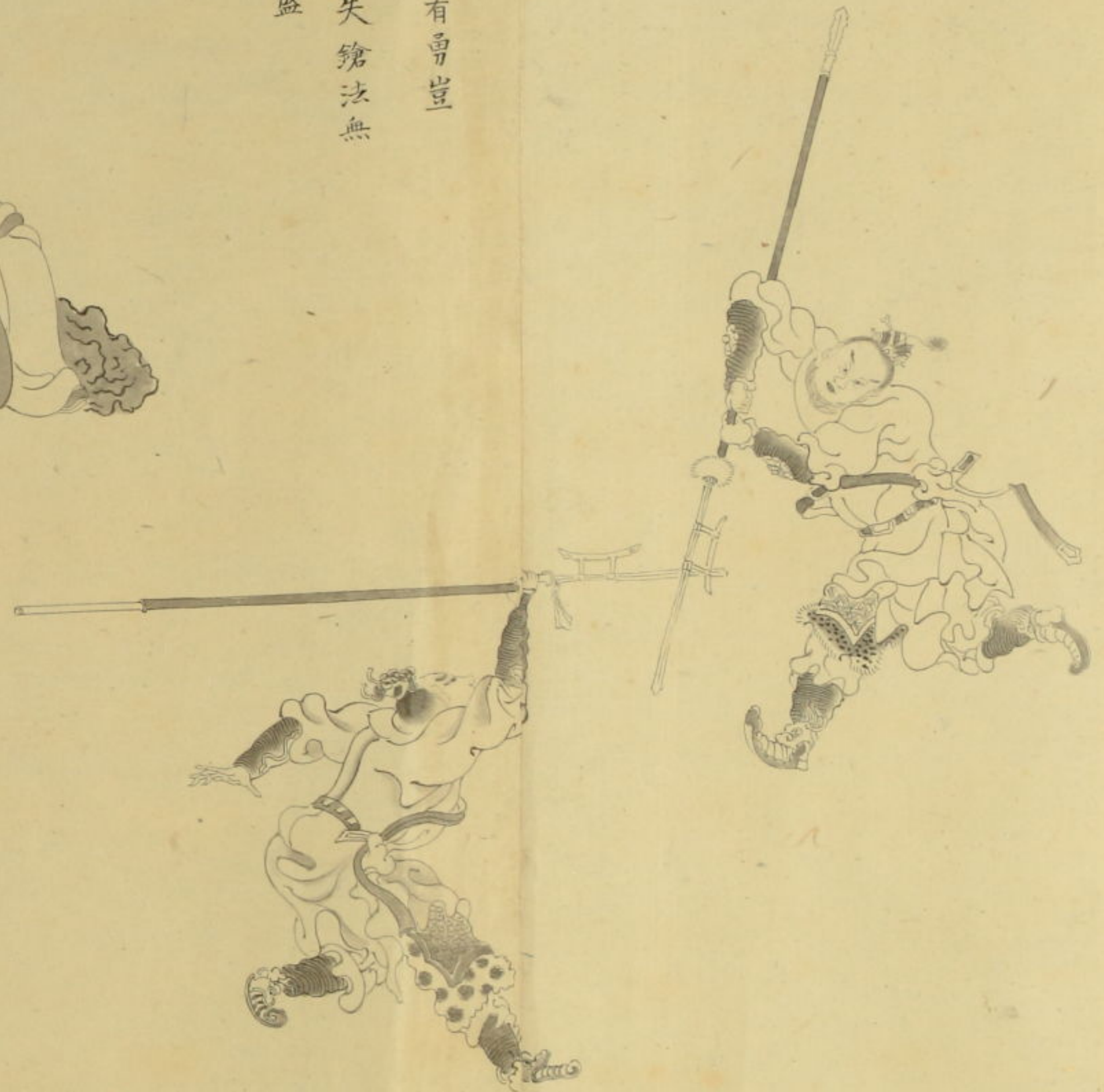


地軸撼而天開轟敵入膽碎  
沙場紅淚振寧為百夫長莫  
作一書生 蔣敬



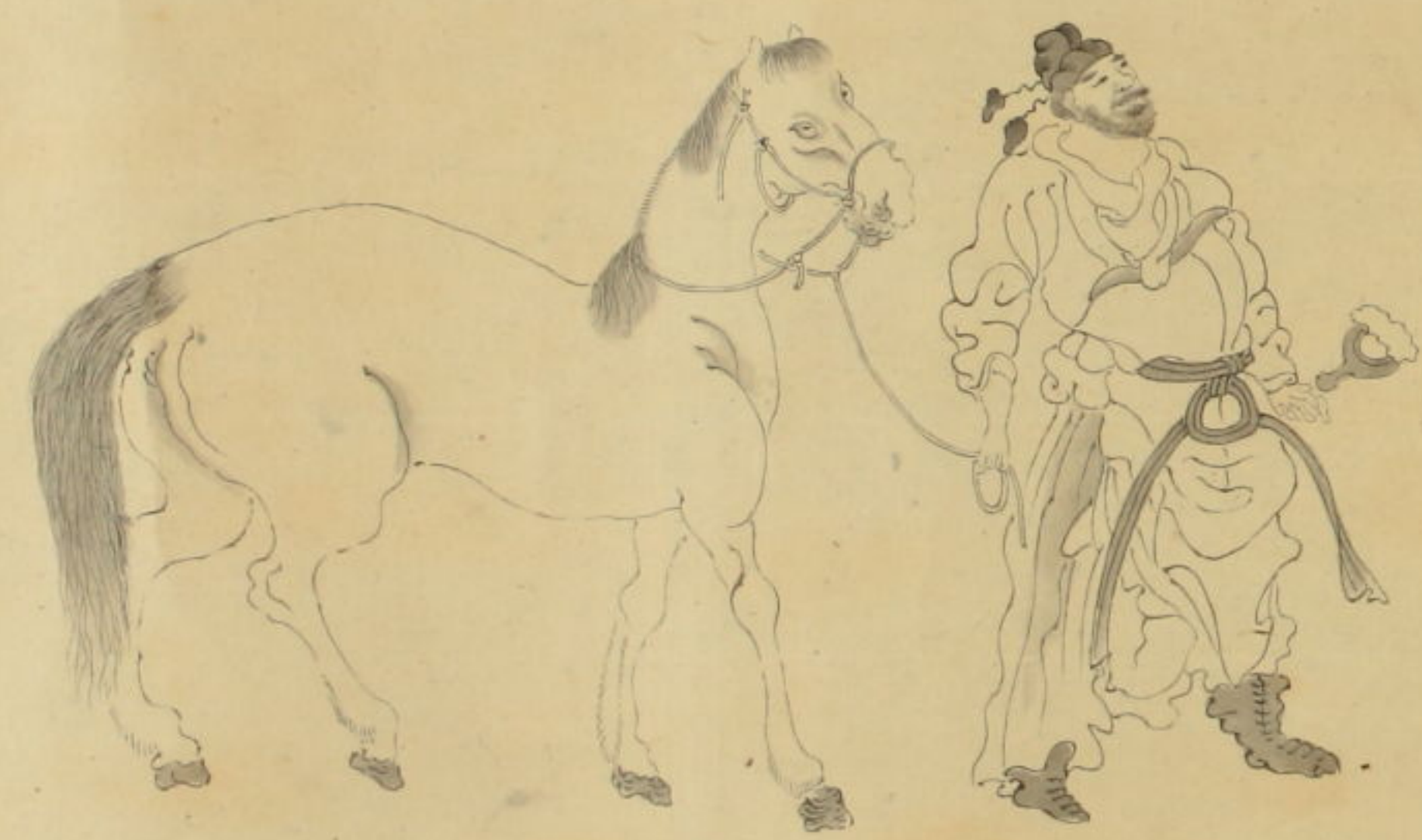


相似呂溫疾有勇豈  
無勇 呂方  
刺域有得失 鏡法無  
雄雌 郭盛



良方無底應手而起  
安道全

奔蹄來歸無阻陸 皇甫端



色眼迷離口下殘軀易美妻 王奕  
桃花馬上女英雄柳葉神刀石榴  
紅 扈三娘



色眼迷離下殘軀易美妻 王英  
 桃花馬上女英雄柳葉神刀石榴  
 紅 扈三娘



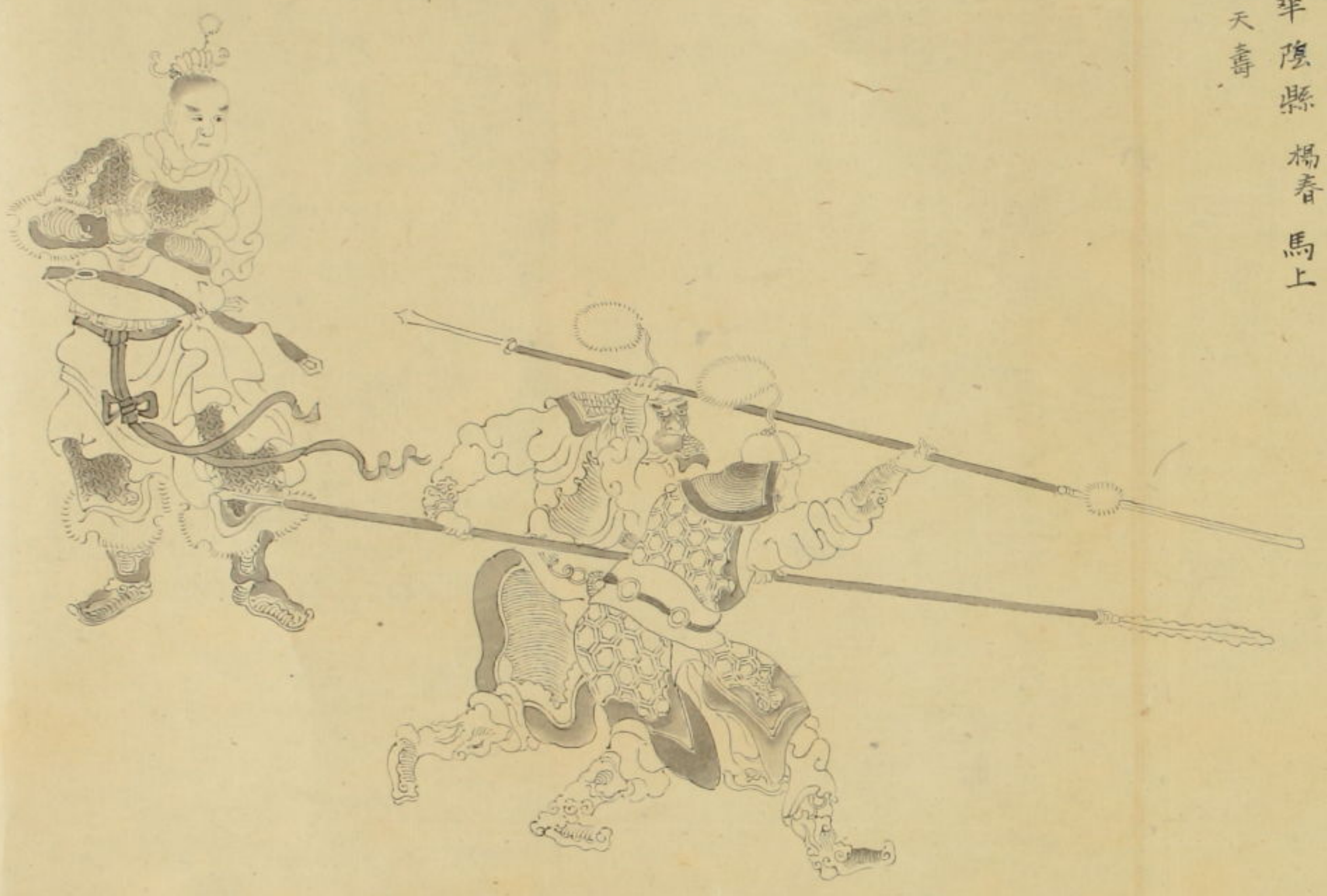
先報凌冽第一功 鮑旭風雨興  
 而兵仗交沙石飛而閉塞黑 樊端  
 揮金而學技師車 憚城吏 孔明  
 心磊落兮性豪華衣鶴黃兮  
 酌杏花 孔亮



雕蟲小技 兵權萬里  
 金大聖  
 江城五月落梅花  
 馬麟

無復分榆赤帝米 項元曾躍入雲百步  
 取人 李蒙 刀能跳澗曾不讓人 陳達 滕  
 屈史家莊虎視華陰縣 楊春 馬上  
 誰家白面郎 鄭天壽

江上旌旗拂紫烟 童稚春耕秋熟  
 燕鵲安能識 鴻鵠 陶宗旺 豪爽襟  
 懷公輸巧技 孟康 歸去好白蘋紅  
 蓼人知少童殿



江上旌旗拂紫烟  
 童猛春耕杖熟  
 燕鵲安能識鴻鵠  
 陶宗旺  
 豪爽襟  
 懷公翰巧技  
 孟康  
 歸去好白蘋紅  
 蓼人知少童厥



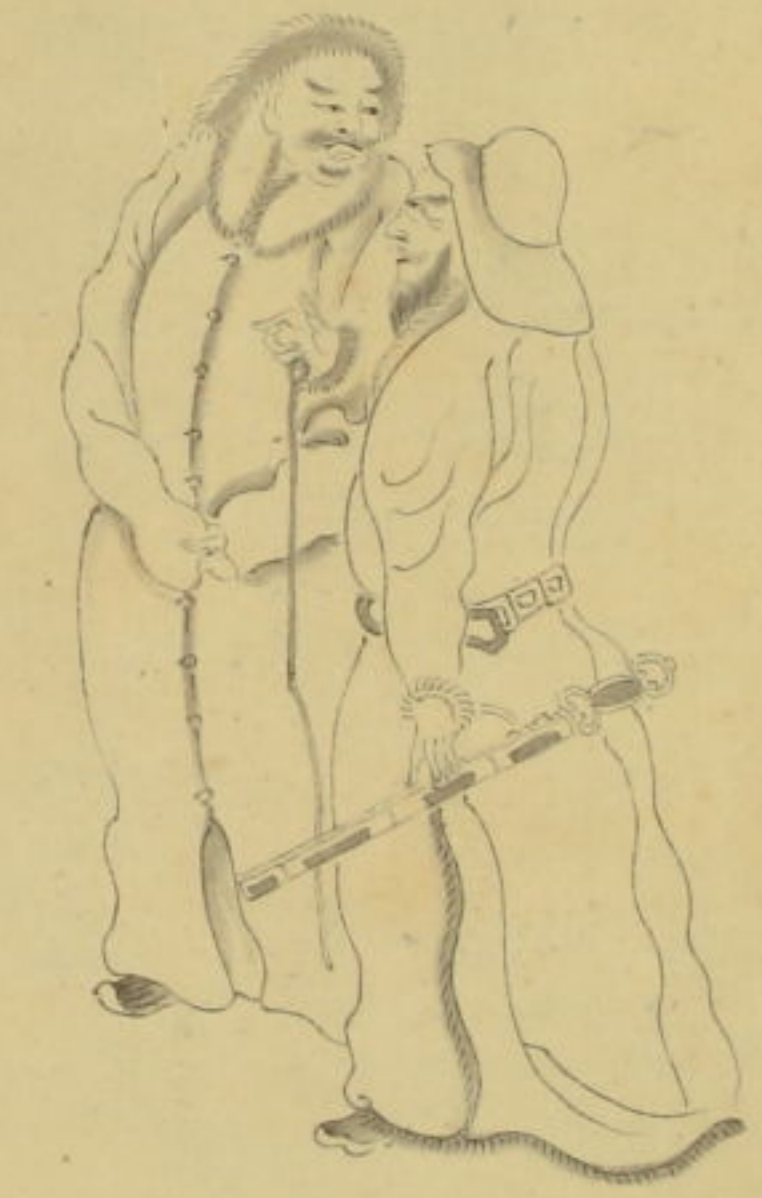
死生有命風塵不定  
 候健兜脫其  
 觥旨酒思泉  
 朱清  
 關山曲裡竹雲濕  
 樂和



東昌耀武輔翼如虎  
 龔旺  
 左衝右突氣挽西山落日  
 丁得孫  
 偏宜附鳳攀龍何必求田  
 問舍  
 穆春



能畜救人心 錯認標刀鬼曹正  
 伯樂不至三且立市 薛永金  
 勒斲芳草玉樓醉杏花 託恩



不獨創業難守亦不  
 易 壯遊 全身出世開山  
 力士 求萬  
 博浪沙中未識名  
 湯隆



氣壓江東王 誰為綠林客 周通  
 桃花山金鼓振天關 李忠



豪情俠氣四海皆兄弟  
 鄒潤面目如鬼神  
 斗膽能照人  
 杜康繼踵獨擅頭  
 春永朱杜康  
 貴智救黑旋風  
 義縣青眼虎朱富



眉濃眼大性偏奢  
 時揮鬢邊花  
 蔡慶儀表欲凌雲  
 一羊蒼生祝使君  
 蔡福  
 宇駭不乎以貌取人  
 焦批設細張羅  
 落日西峯  
 豺虎多李立  
 天涯水涯四海為家  
 李雲



傾心忘彼士為知己  
 死不置  
 荷鐘結英雄  
 醉入村酒濃  
 張吉夫  
 為屠妻為沽誰能調  
 笑酒家胡孫二娘



一醉似登仙  
 帶人此息肩  
 白勝世上於  
 今年是君時  
 還千里致名駒  
 翻然北壯  
 殷景任



聞外間內夫妻列隊  
 孫新  
 風吹掃花滿店香當爐  
 曹悍客畏營顧大嫂塵土  
 暗香雲宜旌旗蔽白日  
 郝保四  
 朝秦暮楚赴湯蹈火  
 王定六





漁莊陸謙法李龍眠筆於西冷之竹倚草堂

陸謙法印  
白

天保乙未秋 蘇洲寫 蘇洲

右清陸謙畫水滸一百八人像賈以耕堂外史南溟摹寫  
卷軸再寫為南溟落款壬辰夏五月偶見此軸不覺故  
筆因美其圖云云像賈誤寫甚多今推文而改正畢

著作堂 瀧澤文庫

水滸傳之三箇乃隱微あり唐山水滸文人學士乃彼

書をいふれはゆをいふ水滸を評注するは

此書藏を世に充てしめる金瑞中子執事より

知るべき事ありしをいふ水滸三箇乃



水滸傳の二箇乃隱微あり唐山なる文人學士乃彼  
書をのりてこれを評注するに如  
此書識をせし元とてする金瓶李贄とての如く  
知く予嘗て此を讀みて其の如くは二箇乃  
隱微と當時世に出現の妖魔を一百一十あり  
幸又洪信と王進と便乞前後身王進と  
史進と師第一體あり又宋江百八人の  
初善中惡後忠の三等あり即是斯の予の  
彼妖魔の着落を百十人ありといふ  
第一回洪太尉誤走妖魔といふ段小那道  
黒氣直冲到中天裏空中教作百十  
道金光望四面方去るとあり此の當目  
洪信の誤りて走せし百十乃妖魔の百十  
後來ありて百八人の真像とて記す  
二妖魔足るは此の如くは二箇の大妖  
魔ハその奸險兇暴の如く是れあり  
宋の天下を傾けし一人と太尉高俅又一  
人を晁蓋を殺せしは此の百八妖魔も俱  
乎人間に出現し宋の天下を鬧せしは  
とも兇暴乃中よは此の如くは好所あり  
此の天罡地煞の數は應て自刑し  
るの妖氣を鎮め後竟に宋の爲に俱に忠  
義を盡せしこの條の妖魔高俅と晁蓋を  
此の善果あり故に天罡地煞の數は此の  
開くは魔光百十道とてありて二妖魔成

此の善果なり故に天罡地煞の數のゆゑに  
用ふる魔光百十道と云ふなり二妖魔我  
あつたる高俣晁蓋之を以ぬの作者の隱微  
ありの知音の發揮は儘せし又洪信は  
王進ハ前後身といふなり初に太尉洪信ハ  
石碣を葺け衆魔を走し後ハ教頭  
王進を史進ハ武藝を傳へし衆魔世ハ  
出現は賢奸の差ありしとも恨は妖  
魔を世にあらざるを言ふ事ハ是一なり且洪  
と王と音近し信と進も音近し見るにし  
不信の太尉を信と名つる退隱の教頭を  
進と名付けし理も亦胡元瑞の所謂  
或文ハ其名を顛倒は婦を夜ハ宜んを  
命するは且をりし用場事を始るを則  
今ハ其末をりし汚穢潔くはる乃  
命するは淨をりし如しをりし  
水滸乃化者衣冠を賤く草賊を忠義  
と云はるは其の名を顛倒し脚色を建てる  
なり金瓶外書評注の云ふ事ハ數言  
形も情も其の義なり切に投筆は  
臆視をりし自負はるゆゑなり足るは  
緯より一毫ある誤りも千里をわたり  
はるありしや又王進と史進とは師弟一  
體なりしハ進進を同名に且其の始を王  
と命し史とせしは作者の深意ありし史ハ五

體にあらざるハ進進を同名に且その姓を王  
と命し史とせしむ作者の深意あり史ハ五  
夏之録とあり王氏の技藝を史氏に續  
の義猶且王事と野史の録とをいふは  
のひふを理はると金瓶を史とを辨し  
王事ハ小の義ありといふはけりおん  
ねりまはと史史進と王進を家と留めり  
師とせしむる程もなく少華山なる賊の  
頭領朱武楊春陳達等と通同せり乞  
百八箇の強人の世にありを嗜矢ねとハ初  
洪信の石碣を讀みしと後ハ王進の史進ハ武  
藝と傳へしや前後極めし照應ありか  
史進の世はしり王進と隠れし進進  
一體なるなり史進ハ即王進あり王進ハ  
史進之影去り形留一進一退用用  
王進ハ結局はまゝ職とてこれの由は  
金瓶李贄ハ言ふもあれ義を悟りし  
なり水滸後傳の化者鴈宕山樵ハ其書ハ  
王進を再出し李俊の部下の大將あり  
ある前傳と接んとて却る前傳の真面  
目と損つるを知りしやれ又宋江等一  
百人ハ初善中惡後忠の二等ありといふ  
とて是れに予の志ありかありは  
ある具はせし抑羅貫中の水滸の一書  
宜和遺事なる宋江李進義等の徒二十

つよ具はせしと抑羅貫の水滸の一書也  
宣和遺事なる宋江李進義等の徒二十  
六人の事なり唐々終成しく男は地煞七十二人を  
他は添くも此れは楊志の市は寶劍を信し事  
少く宋江の肩婆情を専りくを後に殺すとわすは  
彼遺事よりいふ事ありて金瑞とことしを辨  
せし宋史を引く事ありて宣和遺事を又いふ事  
とすしかくも金瑞ハ水滸の皮肉を知らる事骨  
髓をゆきりし事ありて亦水滸を評せんや  
思ふに久しくわすれし事ありて眼をこれに九  
牛の一毛なりと作者の隱微を發揮しと世筆  
はふみよ及へる事水滸の作者とせよありて  
皇國世云美  
久小よ来りて事ありて吾言す  
志の事ありて思ふは鼻乃うここと  
十襲秘藏の流なる代同好一二の友ありて  
又と書やとての事ありて

水滸隱微評一編天保二年鼻月應於一友人  
と書所述今又貼此画卷篇九代題跋時

乙未秋九月吉日 兼益漁隱書

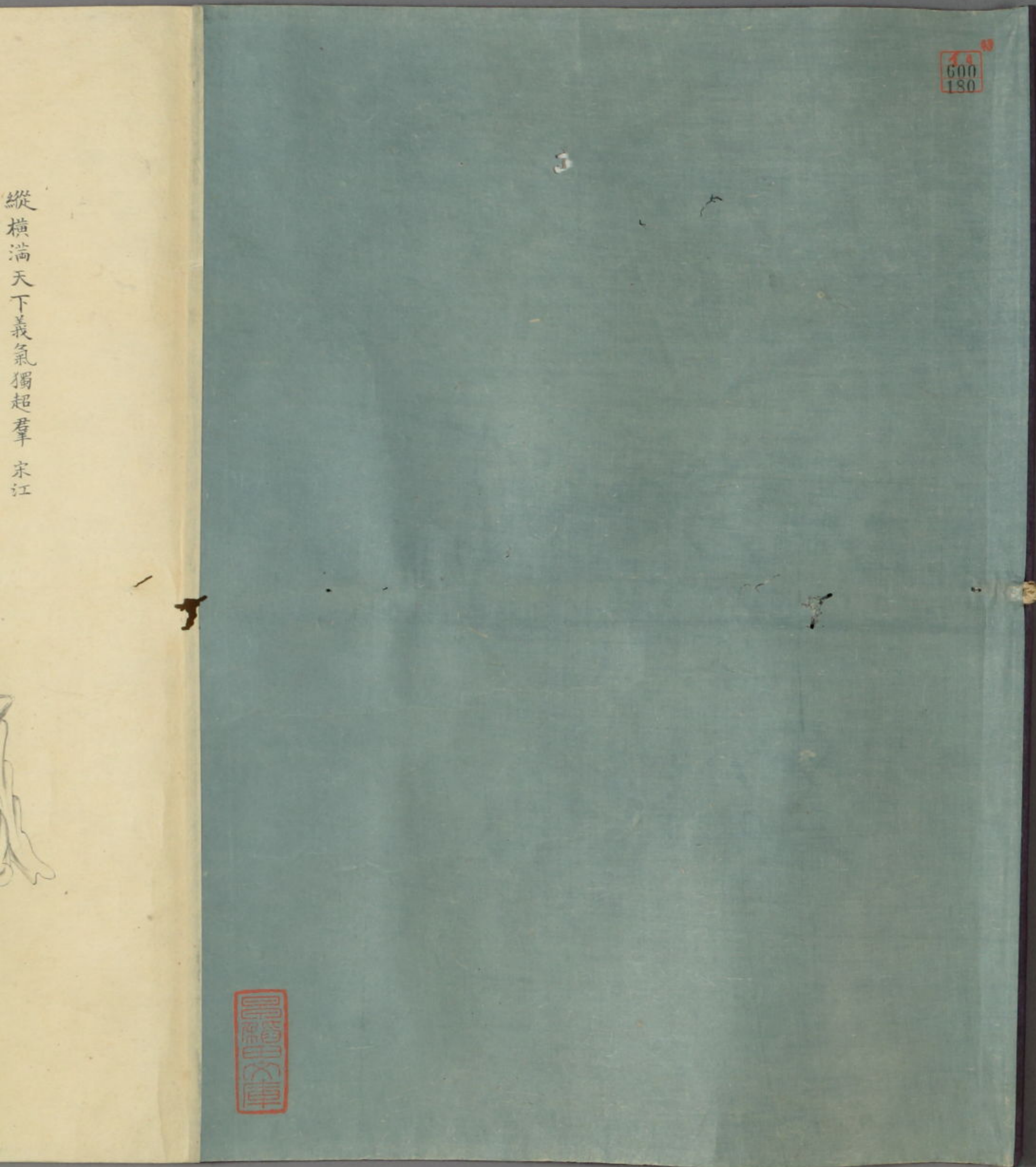




清陸謙画水滸百八人像頁臨本

184  
607  
180





600  
180

縱橫滿天下  
義氣獨起羣  
宋江



乙未秋九月之吉

蕞笠漁隱書





清陸謙水滸百八像頁臨本

600  
189





著作堂藏書